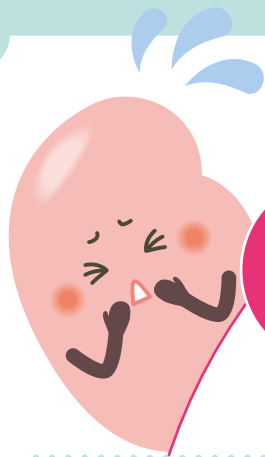


腎臓の状態を

チェックしよう

8人に1人が慢性腎臓病といわれています。



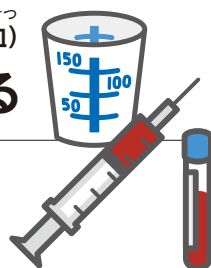
慢性腎臓病(CKD)をご存じですか？

- 慢性腎臓病は、腎臓の働きが悪くなり、尿たんぱくなどの異常が3ヶ月以上続く状態のことです。
- 8人に1人が慢性腎臓病といわれています。
- 初めのうちは自覚症状がありません。症状が出たときにはすでに重症化している可能性があります。
- 健診(尿検査・血液検査)で早期に発見することができます。



CKDは尿検査と血液検査でわかります。

- 1 尿検査 (尿たんぱく、尿潜血) 尿の異常がある
- 2 血液検査 (クレアチニン) eGFR60未満



①②のいずれか、または両方が3ヶ月以上続く状態

慢性腎臓病(CKD)

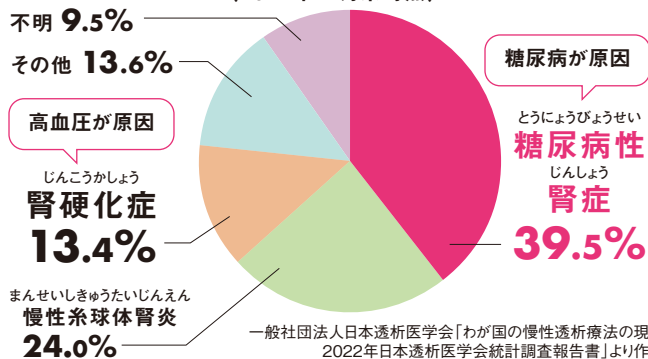
気づかないうちにCKDが進行しているかもしれません。

放っておくと、人工透析が必要になるおそれがあります。

生活習慣病の方は慢性腎臓病のリスクが高くなります。

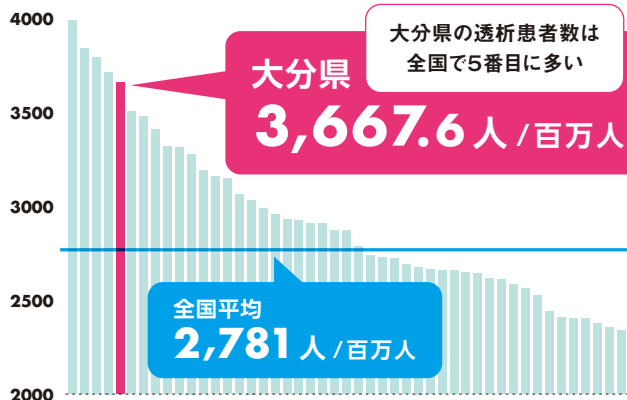
透析導入の原因となったおもとの病気

(2022年12月末時点)



人口100万人あたり透析患者数

(2022年12月末時点)



大分県の透析患者数は全国で5番目に多い

全国平均 2,781人/百万人

一般社団法人日本透析医学会「わが国の慢性透析療法の現況 2022年日本透析医学会統計調査報告書」より作成

一般社団法人日本透析医学会「わが国の慢性透析療法の現況 2022年日本透析医学会統計調査報告書」より作成

慢性腎臓病は早期発見で進行を抑えることができます。

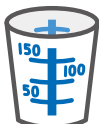
大分県・大分大学医学部附属病院糖尿病性腎症重症化予防専門外来

年に1回健診(尿検査・血液検査)を受けましょう。

尿検査・血液検査で腎機能を
チェックしてみましょう。



- 早いうちに治療を開始すれば改善したり、進行を遅らせたりすることができます。



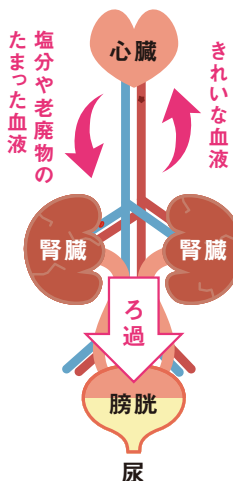
尿検査でわかること

尿たんぱく

腎臓では、体内の血液をろ過し、老廃物を排出するため尿をつくります。腎臓が傷んでくると、大切なタンパク質が尿に排泄されてしまいます。これを尿たんぱく陽性といいます。

※eGFRの数値がよくても、尿たんぱくが陽性の場合には直ちに医療機関を受診してください。

腎臓の働き(概略)



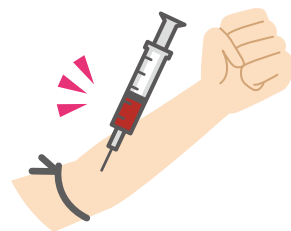
血液検査でわかること

eGFR

eGFRとは、腎臓がどれくらい機能しているかを表したものです。数値が低いほど腎臓の機能が低下しています。eGFRの数値=腎臓が何%機能しているかと見て良いでしょう。

eGFRが60を下回る場合は要注意です。

eGFRは加齢とともにどなたでもゆるやかに低下しますが、定期的な検査により急激な低下を発見することができます。



あなたはどのステージにあてはまりますか？

慢性腎臓病(CKD)の重症度は、「eGFR(腎臓の働き)」と「尿たんぱく」を組み合わせることで評価します。緑のステージを基準に、黄 → 橙 → 赤の順にステージが上昇するほど末期腎不全、心血管疾患の発症リスクが高くなります。資料:CKD診療ガイド2012を改編

慢性腎臓病(CKD)の重症度分類

		たんぱく尿区分		A1	A2	A3
				-	±	+以上
eGFR 区分	G1	正常または高値	≥90	緑	黄	橙
	G2	正常または軽度低下	60~89	緑	黄	橙
	G3a	軽度~中等度低下	45~59	黄	橙	赤
	G3b	中等度~高度低下	30~44	橙	赤	赤
	G4	高度低下	15~29	赤	赤	赤
	G5	高度低下~末期腎不全	<15	赤	赤	赤



早期発見・重症化予防のポイント

- 健診を毎年受診しましょう。要検査は放置せず医療機関を受診しましょう。
- 腎臓を守るために生活習慣を改善しましょう。
- 生活習慣病の方は、適切な治療を受けましょう。